調査報告

遠藤(2021)レポート≪二子玉川付近を歩いてみた≫調査報告：
2019 年台風 19 号と多摩川洪水．GaNT 研究ノート，1，1-5.

レポート≪二子玉川付近を歩いてみた≫

調査報告：2019 年台風 19 号と多摩川洪水

Report：The 2019 Tamagawa Flood at Futago-Tamagawa, southern Tokyo

遠藤邦彦[1]
Kunihiko ENDO[1]

Typhoon 19 was landed on the Kanto District on October 12, 2019, and flood hazards occurred along Tama River and the other areas. Topographical condition in Futago-tamagawa area along the lower Tama River, where a tributary Nogawa join, was surveyed.

1：NPO 法人首都圏地盤解析ネットワーク Geoanalysis Network of Tokyo capital Region
連絡先　knhendo@gmail.com

≪2019 年秋には大型の台風が次々と上陸し被害をもたらした（図 1　2019 年の台風 15 号と 19 号のコース：GaNT ホームページ，天気なう>台風）．

10 月 10～13 日の台風 19 号による豪雨により，多摩川は増水し，下流部では氾濫するなど各所で災害が発生した．氾濫に襲われた二子玉川付近を調査し，多摩川に沿う地形との関係を見てみた．≫

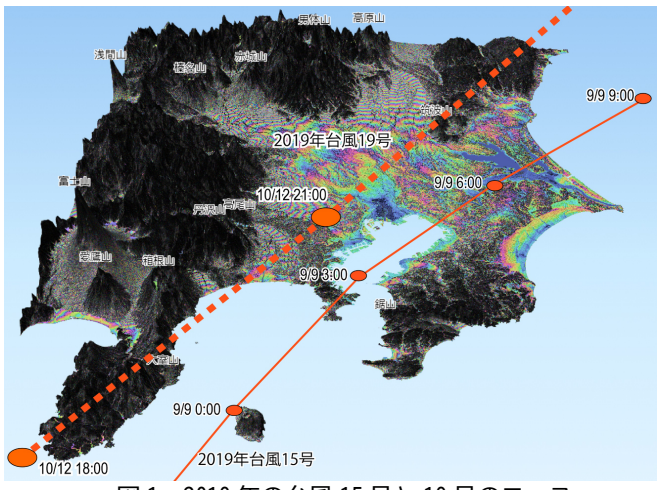

図 1　2019 年の台風 15 号と 19 号のコース
GaNT ホームページ，天気なう

1. 国土地理院の治水地形分類図や土地条件図から読み取れること

多摩川に沿って，調布市付近から世田谷区，川崎市多摩区から高津区・中原区にかけての地域の治水地形分類図を切り取り、若干の記述を加えたのが図 2 である．台地（武蔵野面と立川面が含まれる）は褐色（オレンジ色）で示され，低地側はうぐいす色の氾濫原，黄色の自然堤防・微高地*，旧河道などを見分けることができる．これによって多摩川に沿う台地と氾濫平野（氾濫原）の地形を眺めてみよう．

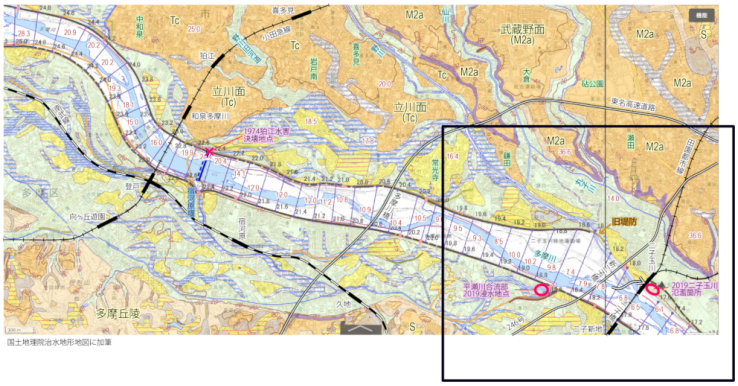

図 2　東京都調布市～神奈川県川崎市の地形
（国土地理院「治水地形分類図」に基づく）

1974 年に狛江市で起こった多摩川決壊は宿河原堰の狛江側であったが，丁度旧河道が存在したところであった．多摩川の河川敷（標高 19～20m）より 2～3m高い立川面は浸水しなかった．〔図には堤防を挟んで測線が 200m毎にひかれている．数字は河口からの距離〕．

*：微高地：一般面との比高が 0.5～1m 程度以上あるもの。

<堤防の種類>
完成堤防：予想される最大流量に対して必要な高さと断面を持つ堤防
暫定堤防：予想される最大流量に対して必要な高さはあるが、完成の計画に至っていない堤防
暫々定堤防：予想される最大流量時の水位より低い堤防
旧堤防：昭和 50 年代に作られた地形分類図で土堤としている部分

2. 二子玉川付近を歩いてみた

台風 19 号が 10 月 13 日に通過してから 1 週間後に，二子多摩川付近を歩いてみた(写真)．

地形と災害の関係性を見てきた立場から，特にこの付近で追跡できなくなる立川段丘面との関係を検討してみた．従来は，立川市など上流から極めて広く連続的に発達する立川

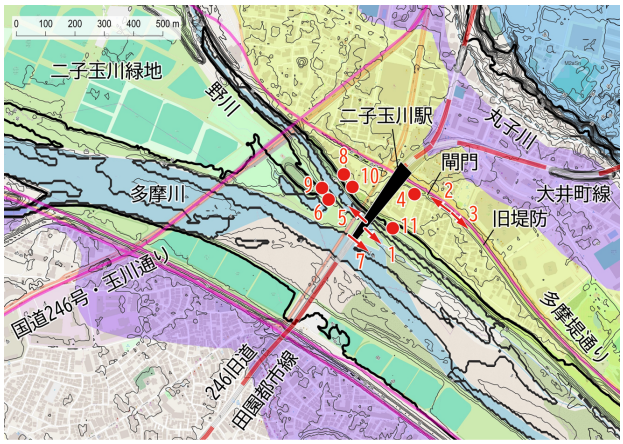

図 3　二子玉川付近調査地点(写真撮影地点)の位置

写真１　二子玉川駅ホームから下流側

写真２　二子玉川駅付近から東方に伸びる堤防(旧堤防)

写真３　多摩堤通りに沿う旧堤防

写真４　旧堤防(暫定堤防)の斜面と閘門

段丘面は，2.5 kmほど上流の喜多見付近で見られなくなるとされている．

1974 年に堤防が決壊した狛江市あたりから二子玉川を経て武蔵小杉・下丸子あたりまでの多摩川流域は地形的にも災害リスクの大きいところであることが分かる．

写真１は，二子玉川駅のホームから多摩川の下流側（東方）を見たもの．

河岸には護岸がされているが堤防はない．旧堤防は住宅地と背後の高層ビル群の間にあるので見えない．

写真２は，多摩堤通りに沿う暫定堤防・旧堤防．

向こう(西方)に見えるホームが二子玉川駅．堤防の左手斜面に浮遊物があり、左手の堤外地に浸水した跡がある．堤防には切れ目(閘門)があって横断できる．

写真３は，多摩堤通りに沿う旧堤防(暫定堤防)，東方を望む．右側が浸水した堤外地にあたる．堤防の左に沿う道路は多摩堤通り．

写真４は，旧堤防(暫定堤防)の斜面．斜面の植物に付着物が認められた．

写真 5　駅から西方を望む

写真 6　多摩川の河川敷

写真 7　河川敷から下流を望む

写真 8　氾濫地点

陸閘とあるが，写真 2 の手前側のように堤防に切れ目があって，普段は人が通行できるようになっている．

写真 5 は，駅から西方を望む．上方の細い川が野川で，橋の向こうで多摩川に合流する．合流点付近から多摩川沿いにやってきた洪水流が陸上に乗り上げた．

野川の合流点一帯に立木を含む漂流物が集積する．洪水が通過した小さな橋の向こう側遠方に国道 246 号の新二子橋が見える．

写真 6 の野川合流点の橋を渡って多摩川の河川敷に降りてみると，線路に並行する二子橋付近の河川敷は激しい流水によって河床は削られ，溝の下には礫層が顔を見せている．手前左手は堆積した奇麗な未固結砂層(今回の洪水によると推定される)．

写真 7 は，橋の下の河川敷から下流を望む．二子橋の橋脚の間から，武蔵小杉のタワーマンション群が立ち並ぶ．

写真 8 は，野川合流点のすぐ下流側で，濁流が通過し陸に乗り上げた跡で，流木や多量の浮遊物が集積している．

写真 9 は，野川合流点付近の橋を渡ってすぐの中州にある樹木（金木犀）で，濁流の水位は

写真 9　濁流の水位が分かる

写真 10　洪水流の流路

写真 11　氾濫地点

写真 12　氾濫の痕跡

中州にたつ樹木に残される泥や漂流物から 5～7m位高かったことがわかる．

写真 10 は，洪水流が二子玉川にあふれ出た流路を示すもので，濁流はこの中州の木々の右手を抜けて，正面に見える高層ビルに向かって進み，堤防のない土手を乗り越えて，駆け上がり，巨大ビル群の右手に進み，旧堤防の南側の住宅地に浸入した．前方の高層ビルの地下は浸水した．

写真 11　濁流はここを通り抜け大木を倒して進んだ．中央に倒木．

写真 12 は，駆け上がった洪水が二子玉川駅の下を通り，堤外地の道路沿いに浸水させた様子．片つけられているが，道路の脇に泥や砂，漂流物が残る．

後注

二子玉川付近の現地調査を通して，狛江付近では多摩川との比高があり，氾濫の恐れの少ない立川面が，二子玉川一帯から多摩川との比高が小さくなる点が重要と考えられた．

二子玉川付近には，武蔵野面を流下してくる仙川が流れ込み，低地部では丸子川と呼ばれる．仙川だけでなく，野川もこの付近で多摩川に合流する．比高が小さくなった立川面は，そうした中で複雑な性質を持っている．そのため，多摩川に沿う立川面の性格を検討してきた．その検討結果は次号を参照いただきたい．